

## 和達三樹先生のご逝去を悼んで

宮下 精二 (物理学専攻 教授), 小形 正男 (物理学専攻 教授)

和達三樹名誉教授 (物理学専攻) は、2011年9月15日にご逝去されました。享年は66歳でした。和達先生はとても気さくで、いつも周りを楽しくして下さっていました。そのお話の中には学術ということに対する深い洞察があり、最近の世知辛い世の中の趨勢を超越し、余裕をもった研究・教育活動を進めることを身をもってお示しになっていました。このところ少しお体の調子をくずされていましたが、それでも、いろいろな委員会や国際会議に出席され、先生独特のお話をされているのを拝見していましたので、今回のあまりに早すぎのご逝去には言葉を失っています。

和達先生は、数理物理学、統計力学の分野で常に世界的な指導者としての役割

を果たしてこられました。とくに、多ソリトン解の発見をはじめ、逆散乱法の構築などソリトン研究で多くの先駆的な業績を達成され、さらに、そこから発展した量子逆散乱法の展開においても、無限に多くの厳密解をもつ統計力学的模型を導く系統的な方法の開拓、可解模型と結び目問題との関係などを明らかにされました。これらの業績に対し、日本IBM賞、仁科記念賞を受賞、さらに紫綬褒章を受章されています。また、著作も数多く、とくに「非線形波動」(岩波書店、1992年)は標準的教科書になっています。また、日本物理学会会長として、アインシュタインを記念する世界物理年において、数々の企画に取り組みされたことは記憶に新しいところです。



■ 故・和達三樹先生

これから、数理物理学、統計力学はもちろんのこと、わが国の学術に関して大所高所からのご指導が期待されていた中でのご逝去は、大きな痛手ではありますが、これまでご指導いただいたことを心に刻みながら、先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

## 岸保勘三郎先生のご逝去を悼む

佐藤 薫 (地球惑星科学専攻 教授)

本学名誉教授、岸保勘三郎 (がんぼ・かんざぶろう) 先生 (地球惑星科学専攻) は病氣療養中のところ2011年9月19日にご逝去されました。享年87歳でした。先生は1952年、本学の助手時代、米国プリンストン高等研究所に招かれ、世界の気象学リーダーだったジュール・チャーニー (J. G. Charney) と電子計算機の生みの親フォン・ノイマン (J. von Neumann) との「数値天気予報」の共同プロジェクトに参加されました。これは、それまでの経験則に基づく天気予報を、流体や熱力学の方程式を電子計算機によって時間積分し予測する客観的な科学へと変貌させる画期的な研究でした。先生は帰国後まもなく気象庁に異動し、

日本の数値予報の育成に尽力されて、世界的にも早い時期にその実用化を達成されました。1970年本学に理学部教授として戻られてからは日本の気象学界全体のリーダーを務め、気象学はもとより気象衛星「ひまわり」の打ち上げなど気象事業の発展にも大きな貢献をされました。

岸保先生は、講義において必ずその日の天気図の解説から始められました。現代気象学の発展をリアルタイムで歩んでこられた先生の講義は、穏やかなお話しぶりとは裏腹にとっても刺激的であり、夢中でノートをとったものです。先生の薫陶を受けた最後の学生の一人として最終講義で花束の贈呈をさせていただいたことを懐かしく思い出します。



■ 故・岸保勘三郎先生

「日本の数値天気予報の父」とよぶにふさわしい学者気質の先生のお姿を偲びつつ、ご冥福を心よりお祈りいたします。

## 小石川植物園の「ニュートンのリンゴ」の苗木が名古屋大学へ

広報誌編集委員会

このたび縁あって、本研究科の小石川植物園にある「ニュートンのリンゴの木」の苗木が一株、名古屋大学理学研究科からのご依頼により同研究科へ寄贈され、2011年10月25日に同大学で記念植樹が行なわれた（写真）。この植樹は、2008年にノーベル物理学賞を受賞された益川敏英先生と小林誠先生が、名古屋大学で博士号を取得されたこと、また同大学に昨年4月より素粒子宇宙起源研究機構が設立され、益川先生がその初代機構長として就任されたことを記念して行

なわれたものである。

栄えあるノーベル物理学賞の記念植樹として、物理学の開祖であるニュートンゆかりのリンゴがふさわしいことは言うまでもないが、小石川で接ぎ木された苗木が名古屋大学に贈られたのには、もうひとつ理由がある。1964年、ケンブリッジ大学のサザーランド卿から、万有引力発見300年の記念行事としてニュートンのリンゴの苗木が贈られたさい、日本側で労をとられたのが当時の学長だった柴田雄次先生で、先生は1942年、東大理学部教授（化学）から、創設された名古屋大学理学部の初代学部長になられた方だったのである。苗木が名古屋の地にしっかり根を下ろし、名古屋大学理学研究科と東京大学理学系研究科の一層の



益川敏英先生（左）と小林誠先生（右）による、名古屋大学での記念植樹。当日は雨模様のため、テントで囲って執り行われた。

友好の絆となることを願いたい。

この苗木の来歴については、附属植物園長（当時）の邑田仁教授が、理学部ニュース2010年3月号「発掘 理学の宝物」に詳しく書かれているので、ぜひ参照されたい。

## 東京大学大学院理学系研究科・博士学位取得者一覧

（※）は原著が英文（和訳した題名を掲載）

種別	専攻	申請者名	論文題目
<b>2011年9月15日付学位授与者（6名）</b>			
課程	物理	中嶋 大輔	核子あたり2GeVにおける ${}^6\text{Li}+{}^{12}\text{C}$ 重イオン衝突反応を用いたハイパー核生成（※）
課程	物理	岡崎 奈緒	HERAにおける偏極陽電子・陽子荷電流深非弾性散乱の断面積測定（※）
課程	物理	永村 直佳	シリコン結晶表面上に形成される低次元金属系の電子輸送特性の解明（※）
課程	化学	金 兌勲	マントル内のリチウムの循環と同位体不均質の解明のためのオフィオライト、マントル捕獲岩、海洋島玄武岩のリチウム同位体比の研究（※）
課程	生化	加々美綾乃	コヒーシンのアセチル化が減数第一分裂における姉妹動原体の一方方向性結合を制御する
課程	生科	白土 玄	中心子構築の足場として働く新規クラミドモナス蛋白質の研究（※）
<b>2011年9月27日付学位授与者（5名）</b>			
課程	物理	EGGEL Thomas Emil	強い相関を持つ超流体における幾何学的閉じ込めの効果（※）
課程	物理	SINGH Vijay Raj	酸化物磁性体とハーフメタル合金のX線磁気円二色性による研究（※）
課程	化学	CHIU Liang-da	酵母の「生命のラマン分光指標」の起源の解明（※）
課程	化学	LACHER Sebastian	自己集合単分子膜および導電性ポリマーによる有機エレクトロニクスデバイスの界面最適化に関する研究（※）
課程	化学	ZHANG Ying	カチオン性中間体を経る位置選択的なフラーレンの官能基化に関する研究（※）

## 人事異動報告

異動年月日	所属	職名	氏名	異動事項	備考
2011.9.15	地惑	教授	TANIMOTO TOSHIRO	辞職	
2011.9.30	生化	教授	山本 正幸	辞職	
2011.10.1	化学	教授	佃 達哉	採用	国立大学法人北海道大学触媒化学研究センター・教授から
2011.10.1	物理	教授	高木 英典	配置換	大学院新領域創成科学研究科・教授から
2011.10.1	物理	助教	角田 直文	採用	
2011.10.1	生科	特任助教	山口 貴大	採用	
2011.10.9	総務	総務チーム主任	新井 寛	配置換	経理課経理チーム（管理業務担当）から

# 東京大学理学部オープンキャンパス 2011 12月23日に開催

広報委員会

例年、8月初旬に開催をしております理学部オープンキャンパスは、夏季の電力供給状況を勘案して、今年は12月23日（金・祝）に開催することとなりました。

当日は世界のトップで理学の研究に取り組む教員や、理学部で活躍する先輩たちが高校生の方々に最先端の研究内容を紹介します。また、展示、研究室見学などの企画も多数ご用意しております。多くの方々に理学部の活動と魅力をお伝えできればと思っております。今年も多くの方々のご来場をお待ちしております。

【日時】2011年12月23日（金・祝）10:00～16:30

【場所】東京大学本郷キャンパス 理学部1号館（理学部受付）

【参加】事前申込なしでどなたでも参加できますので当日は理学部1号館の受付までお越しください。ただし、東大本部で事前登録をした方は東大本部の受付にお越しください。詳細につきましては下記URLをご覧ください。

<http://www.s.u-tokyo.ac.jp/ja/event/open-campus/2011/>

【主催】東京大学大学院理学系研究科・理学部



## あとがき

私の部屋の時計は3月以来、2時46分で止まっています。東北沖の地震発生時刻です。まるで地震で止まったようですが、実はしばらく前から電池が消耗して数時間遅れるようになったまま放置しておいたのが、地震後の週末明けに研究室に来たら、ちょうどその時刻で止まっていたのです。（波動伝播にかかる時間を考えると東京の大きな揺れは地震発

生の2時46分よりだいぶあとですし、つまりまったくの偶然なのですが、何となく因縁のようなものを感じて、以来手を触れていません。

こちらもたまたまなのですが地震のあと、理学部ニュースの編集にも関わるようになりました。新聞やテレビで地震についての報道が多く、個人的にも取材されることが増えたこの時期に広報の仕事

に関わることに因縁を感じます。一般に地震研究は社会との距離が近いのですが、私個人は意識が高かったとはいえません。でもしばらくは止まった時計と広報の仕事が社会との関わりを意識させてくれそうです。

井出 哲（地球惑星科学専攻 准教授）

第43巻4号

発行日：2011年11月20日

発行：東京大学大学院理学系研究科・理学部

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

編集：理学系研究科広報委員会所属 広報誌編集委員会 (e-mail: rigaku-news@adm.s.u-tokyo.ac.jp)

牧島 一夫（物理学専攻）maxima@phys.s.u-tokyo.ac.jp

広報・科学コミュニケーション：

井出 哲（地球惑星科学専攻）ide@eps.s.u-tokyo.ac.jp

横山 広美 yokoyama@sp.s.u-tokyo.ac.jp

野崎 久義（生物科学専攻）nozaki@biol.s.u-tokyo.ac.jp

HP担当：柴田 有（情報システムチーム）

加納 英明（化学専攻）hkano@chem.s.u-tokyo.ac.jp

shibata.yuu@mail.u-tokyo.ac.jp

清水 正一（総務チーム）shimizu.masakazu@mail.u-tokyo.ac.jp

HP & ページデザイン：宇根 真（情報システムチーム）

小野寺正明（広報室）onodera.masaaki@mail.u-tokyo.ac.jp

une.makoto@mail.u-tokyo.ac.jp

印刷：三鈴印刷株式会社